

経営比較分析表（平成29年度決算）

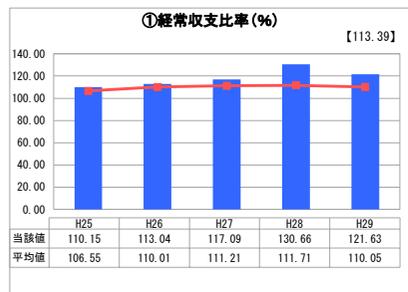
岐阜県 笠松町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	84.35	98.98	1,577	

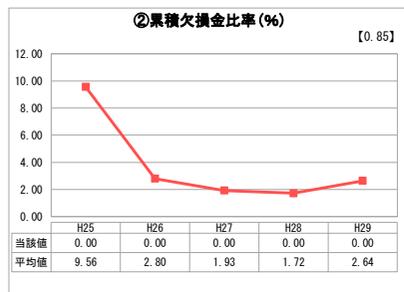
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,340	10.30	2,168.93
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
22,108	7.30	3,028.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

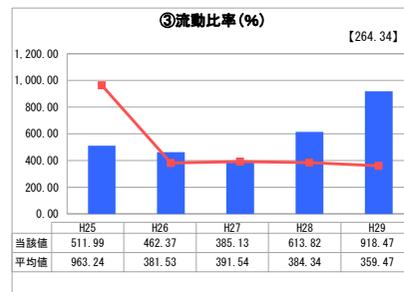
1. 経営の健全性・効率性



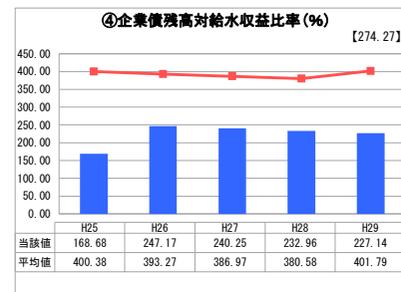
「経常損益」



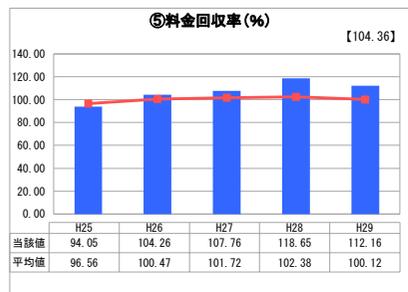
「累積欠損」



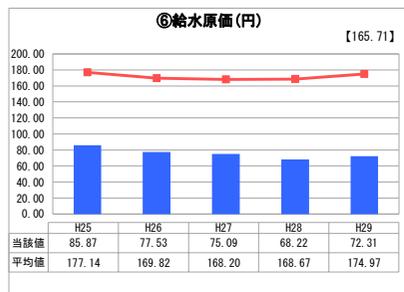
「支払能力」



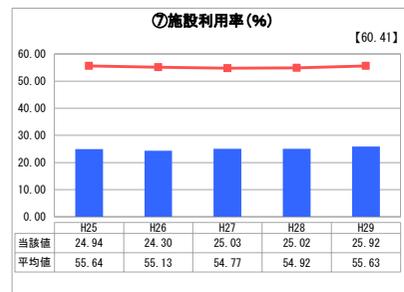
「債務残高」



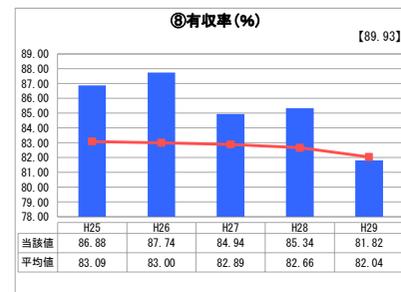
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の水につきましては、地下水を使用していることから、多くの処理をしなくても良質な水道水を提供することができており、全国的にみてもかなり低い料金となっております。

財政面において、料金が安いことにより給水収益が少ない中においても、経常費用を抑えることにより、類似団体に比べ経常収支比率が高い状況で、単年度ごとにおける黒字経営を維持してきております。

また、企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比較しても企業債の残高は低い状況であります。これは、故障等に対して早急に対応することで、大きな修繕工事ではなく修理等により機器の寿命を延ばしてこれたことによるものであると思われます。

しかしながら、平成29年度において、本管の破損による漏水があったため、有収率が下がってしまいました。対策として、定期的な漏水調査の実施を継続し、かつ日々の流量の監視、パトロールの強化に努める必要があります。

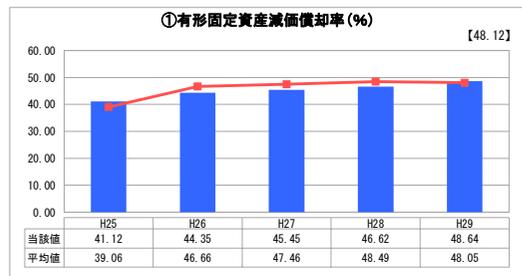
施設利用率では実配水量に対する施設規模が類似団体と比較して、余剰気味であることから、今後水源施設施設の更新をする際には、必要水量等を十分に精査し、適切な規模にすることが必須であると考えております。

2. 老朽化の状況について

平成26年度までは、効率的な財政運営及び工事施工箇所周辺住民への負担軽減という観点から、下水道工事の際に同調して水道管の更新を進めていることにより、積極的な老朽管更新が進められておらず、管路経年化率が類似団体平均を上回る結果となつてしまいましたが、平成27、28年度の工事にて大きく改善しました。

平成29年度からは、平成28年度に策定した新水道ビジョンの水道施設更新計画に基づき管路更新の整備を進めており、管路更新率は類似団体平均を上回っています。今後も健全な数値を保持するよう、計画的に老朽管更新工事を行っていく必要があると考えています。

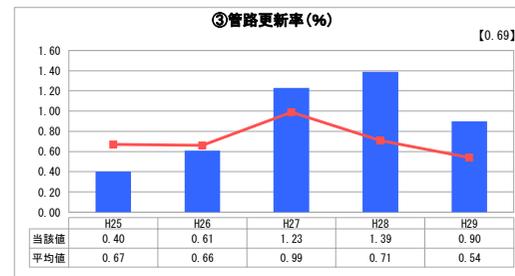
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

現段階においては、安全な水を安い料金で供給できておりますが、昨今の節水機能を備えた設備の充実等により1件あたりの有収水量が減少している現状から、給水収益の減少が懸念されております。

今後、効率的かつ安全な水の供給を実施するためには、水道管や水源施設の老朽化による更新を、状況を見極めながら計画的に実施しなければなりません。

更新するにあたり多額な費用を要することから、投資・財政計画を策定して計画的な経営を行っていくことが重要と考えており、平成28年度に策定した新水道ビジョンをもとに、平成30年度に経営戦略の策定を予定しています。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。